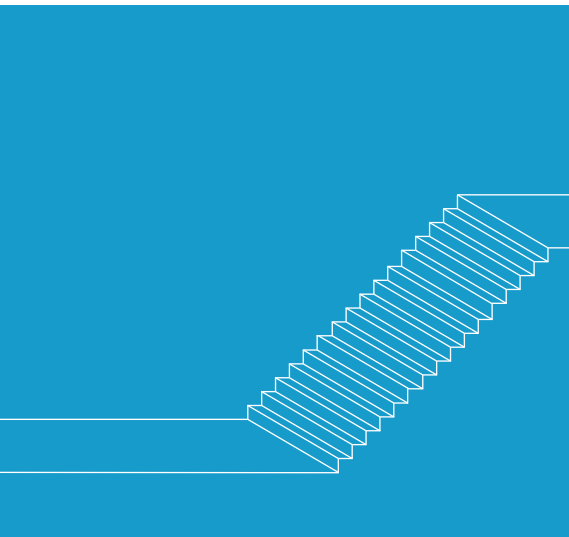


武蔵野美術大学
建築学科
学科紹介 2016



Musashino Art University
Department of Architecture

建築ってなんだろう？

ムサビ建築学科は
どんなところ？

建築学科で
学べる領域は？

カリキュラムの
特徴は？

スタジオ制って
どんな仕組み？

居場所と環境をつくり、社会に新たな価値を創造します

建築には良質な環境をつくり、人々の活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、まち、地域、都市…という特徴をもった環境は互いに関係しあっています。建築はその全体を扱います。身近で永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組みや価値観を語る存在といえます。建築を考え、つくることは、このような社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。

美大という環境の刺激に満ちています

ムサビ建築学科では、環境や社会への視点と同時に、美術大学ならではの特徴を生かし、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求と創造を目指します。学生は美大という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎教育を学び、総合科目や工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を集約し統合するものとして建築デザインを学びます。

私たちの体験する環境すべてが対象です

建築学科で学ぶことは、単に建物をつくるための技やデザインだけではなく、人がその一生をかけて体験するすべての環境が、学びの対象になります。

建築デザイン	インテリアデザイン	空間デザイン
ランドスケープデザイン	環境造形	建築理論
ワークショップ	コミュニティデザイン	住宅設計
インスタレーション	環境計画	都市デザイン

「設計計画」を軸に 4 年間学びます

教育の大きな軸は、4 年間必修の「設計計画」。「計画=planning」と「設計=design」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題です。講義で身につけた知識・技術を「設計計画」の課題に集約、統合させるように、豊かな創造性を育むカリキュラムが工夫されています。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目も開設されています。

3・4 年次の学びは個性を伸ばし、自分の関心と興味を深めます

3 年次以降の設計演習（設計計画Ⅲ・Ⅳ）とゼミ（卒業論文・卒業制作指導）は、各教員が主宰する特色あるスタジオ単位でおこなわれます。学生は自分自身の関心をもとにスタジオを選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていくことができます。共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、社会へと目を向けていく場にもなります。4 年次は所属スタジオをホームベースに、卒業制作や進路の決定に臨みます。

環境を形成するものとして建築を捉え、家具・室内から都市・ランドスケープまで扱う、美大の建築学科ならではのカリキュラムです。

1 年次

造形の各分野を広く学ぶ

1 年次は絵画・彫刻・デザインなど、造形の基礎を広く学ぶことから始まります。他学科開設の実習科目が選択でき、建築に隣接するデザインに触れる機会も得られます。建築史をはじめ美術・デザインの理論や歴史に関するさまざまな講義科目が体系的に整い、1 年次から自由に選択できます。

建築学科が開設する科目では、前期には建築設計基礎、建築設計表現、図学により建築デザインの基礎、表現技法を学びます。後期からは、4 年間を通して学科の中心科目となる「設計計画」(建築設計演習)が始まります。同時に、建築士資格に必要な構造力学、構造デザインなど工学的内容の授業も1 年次から始まります。工学部建築学科のカリキュラムに比べ、造形教育、建築デザイン教育に重点が置かれ、1 年を通して造形力・表現力の基礎を身に付けていきます。

前期・後期の終わりには、外部講師者を招いて1 年次から4 年次までの優秀作品を一堂に会して発表、講評するバーティカルレビューを開いています。1 年生にとってはこれから4 年間建築デザインを学んでいく流れを知るまたとない機会となります。

2 年次

専門に向けて基礎を学ぶ

2 年次の建築設計演習「設計計画Ⅱ」では、住宅や小規模の公共的建築など機能をもつ建築の設計課題に取り組みます。講義科目で学んだ知識を生かして、自然環境、生活、社会、文化といった側面にも着目し、建築デザインを多面的に深く考えることを目指します。2 年間で建築デザインの基礎、表現技法とともに、計画・設計の方法を身につけます。

講義科目では、多様な専門科目が開講されます。建築計画、建築構法、建築材料、計画原論といった建築学の各分野におけるベーシックな必修科目を通して、ひとつの建築ができるまでに必要とされる知識をしっかりと学びます。これらの授業を通して造形としての側面に加え、技術や性能、生活や文化など建築をめぐるさまざまな側面について、理論や実践例に接していきます。また、建築デザインにとって、環境という視点、造形という視点が重要であると考え、2 年次から環境計画 (Environment Planning) や基礎造形など学科独自の講義が始まります。

3 年次

スタジオで深く学ぶ

3 年次から「設計計画」はスタジオ選択制となります。独自のテーマをもつ8 スタジオ (前期4 + 後期4) から各期1 スタジオずつを選択して学びます。分野としても建築デザイン、環境造形、ランドスケープデザインなど多岐にわたり、テーマの異なる2 つのスタジオで学ぶことで、自分の関心のあるテーマを模索、発見し、個性を発揮していくチャンスとなります。

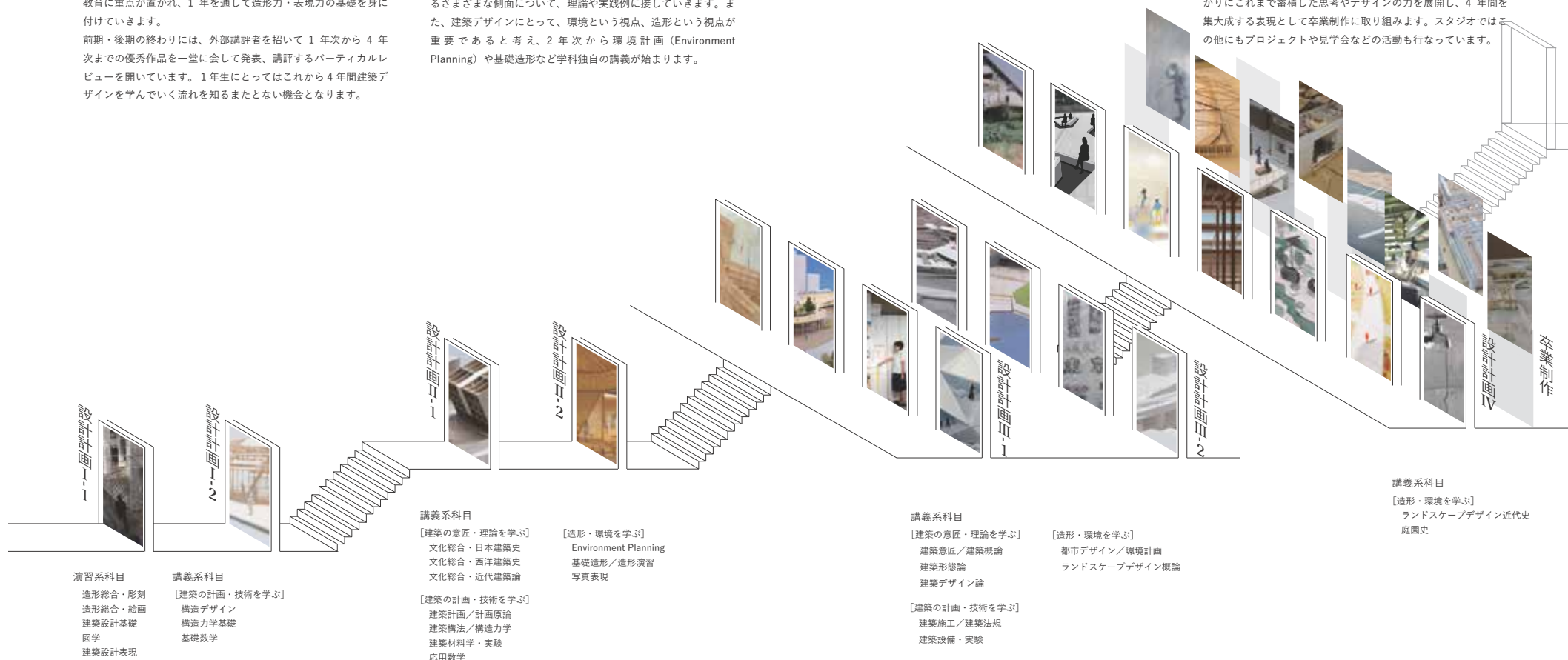
講義科目では2 年次に学んだベーシックな科目内容をより深めた計画・構造などの科目群、実務に必要な施工・法規・設備などの科目群、さらに建築意匠、ランドスケープデザイン、都市デザイン、建築形態論など、領域を広めた科目群が開かれ、スタジオ選択と関連づけて履修することができます。

4 年次

スタジオから社会へ

4 年次には1 年間を通して1 つのスタジオに所属します。スタジオでの時間は、進学・就職・海外留学など各自の進路へと漕ぎ出す、未来への旅立ちの第一歩となります。「設計計画Ⅳ」では空間やものづくりに関わるさまざまな視点から、スタジオの教員と非常勤講師のコラボレーションにより社会における建築や環境のデザインを意識した課題が出題されます。各スタジオのテーマを深化させた課題を通して、各自が将来どのように建築と関わっていくかを考えます。

卒業制作は最も重要な創造・表現の場です。スタジオで指導教員や仲間たちとディスカッションを重ねながら制作を進めます。まず前期には自身の関心を卒業研究にまとめ、後期には研究を足がかりにこれまで蓄積した思考やデザインの力を展開し、4 年間で集大成する表現として卒業制作に取り組みます。スタジオではこの他にもプロジェクトや見学会などの活動も行なっています。



学科の中心科目である「設計計画」の 2014 年度の課題と優秀作品を 1 年次から 4 年次まで紹介します。

[短期課題]

200 m³の家

この課題は、建築設計基礎・図学・建築設計表現で習得した技法を自らのデザインで実践するためのものである。

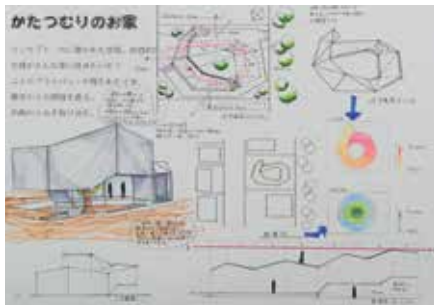
敷地・条件等：敷地は東京郊外の住宅地。南側に緑豊かな公園が位置する。住宅の規模は 200 m²。平面・断面等の形状は自由に想定。ただし、階段を設置すること。家族構成は夫婦。



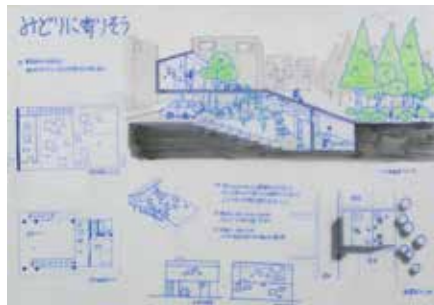
山本 開「関係の密度の建築」



重名秀則「自然と溶け込む家」



米澤隆秀「かたつむりのお家」



七尾陽子「みどりに寄りそう」



設計計画 I - 1

キャンパスにつくる境界の居場所

人はしばしば境界に居場所を設けることがある。縁側や庭に面した窓辺の食卓は親しみ深い事例である。二方向の見通せる交差点の角で立ち話が始まるのも境界的な現象だろう。水田の広がりとその背景にある里山の風景の中で、里山の裾に点在する民家は山と田の境界を形象化したもののようでもある。

そこで我々も、キャンパスの中に境界的な場所を発見し、そこに角材 (36×36×3600mm×25 本) を用いて、共同 (5 人) で設計、制作して居場所をつくることにしよう。



何故、この場所か



場所 武蔵野美術大学のキャンパスは近代的な建築の色が濃いが、対して、江戸影響は緩やかで、非常に自然的な場所である。これは、無機的な建築に対して、一種の緩衝があると言える。また、ムンクエという、動物的な感覚も感じている。

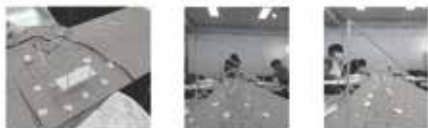
特徴 空間が非常に狭間で、多分できていても場所が狭い、にも関わらず、人間が非常に多い。実際にこの場所は、それとも存在を認知していないから。

時にはベンチも置かれて、木道であれば、居心地のよい「居場所」であると思われる。



Sec3: 設置案のスタディ・決定

大歩留まりのためには、自然的な基盤の見え、連続的な感覚 見ても感覚的な要素である。そこで、スタディを視野で行った。



etc...

Sec4: 施工・設置方法 / デザインの検討

素材の質感について、どのような加工を施せば、デザインが自然なのか。また、アーチの設置方法についてスタディを行った。



採用された切組

視覚を上げるための工夫



「ARCH」制作コンセプト / 制作プロセス



廣田雄大・前島可歩・福田早也花・松村耕太郎・松本理佳「ENERGY」



鎌田弘太郎・神田茉莉乃・狩元大志・木村ゆたか・桑原泰「ARCH」



七尾陽子・野口新・野間有紀子・野口和馬・弘中邦英「4 faces」

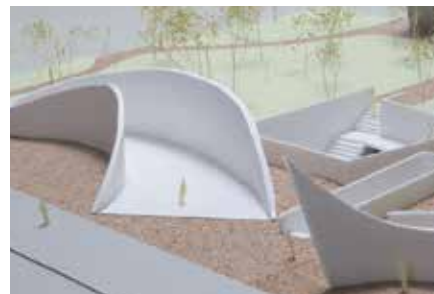
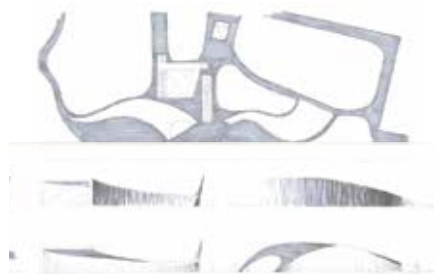


高橋沙彩・近森美奈・中村綱太・塚本智允・中村百嶺「竜」



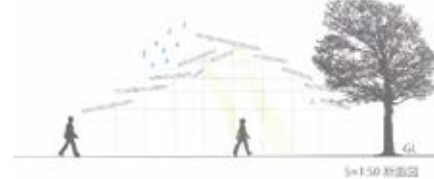
北キャンパスのパビリオン

キャンパスの南面道路に沿って立体作品を展示するパビリオンを、敷地図に指定された範囲に外部空間とともに計画、設計する。このパビリオンは学内者だけでなく、キャンパスへの来訪者、近隣住民、道路を通学に使う学童などが立ち寄る公園的性格をもったパビリオンとし、ワークショップでの利用も考慮する。パビリオンは少なくとも隣接する2つの棟からなるものとし、境界性、居場所性を意識し、2つの棟、棟と外部の連続性、接続を考えて設計する。パビリオンの内部空間は150㎡内外とし、そのほか屋根や壁などで仕切られた半外部、外部空間で全体を構成する（屋根、壁など既成概念から自由でよい）。

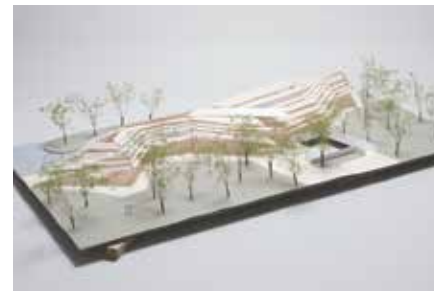


鈴木真知子「path pavilion」

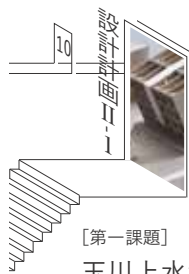
幾多に重なる台形の屋根によって
光、雨、音、風、人々を透過する



1/50 断面図



重名秀則「透過する屋根」



課題紹介



設計計画II-2

11

〔第一課題〕

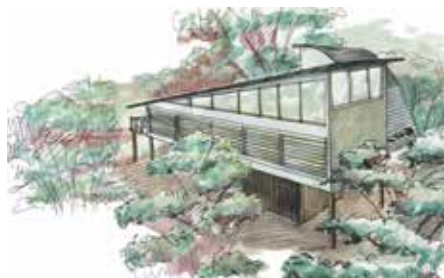
玉川上水沿いに建つ住宅

玉川上水沿いに住宅を設計しなさい。この住宅は、プライバシーを確保しつつ、玉川上水を通る人々へ何らかのサービスを提供できる機能を併設すること。

家族構成：両親＋子供二人（小学生と中学生）

施主の希望：外でのBBQ、家庭菜園

設計の留意点：上水沿いの景観、日射、季節、樹木、外からの視線対策など



小田千尋「流れ屋根の家」

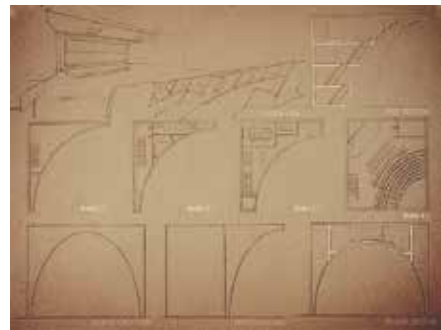
〔第二課題〕

新たな世代のための宿泊研修施設

場所は、八王子の山の中にある大学セミナーハウス。この大学協同の宿泊研修施設は、吉阪隆正によって配置計画並びにさまざまな研究棟およびそれに付随する施設が設計された。近年老朽化を理由に一部が取り壊され、現設計に見られたユニットハウスといわれる分散型の宿泊棟は大部分が姿を消し、他の設計者による新しい施設がつくれ、吉阪建築を愛する人々にとっては心苦しい状況となっている。

この施設では、さまざまなタイプの共同生活を想定した建物があり、それは、学生や先生がそこにある期間滞在し、研究発表などを通じて交流し理解を深めることのできる空間となっている。

今回の課題は、指定された範囲内に下記に記された機能をもつ建物あるいは建物群を設計する。敷地は、傾斜の激しい部分、平らな部分を含むが、各自、自分の計画にあった敷地を想定し完成させてほしい。機能：1. 40名が宿泊できること。 2. 研究発表などができる集会室。 3. 炊飯設備、洗濯、共同の浴室。 4. 屋外BBQスペース、それに必要な設備など。



石井 陽「Neo DISCONT」

〔第一課題〕

木造の駅舎

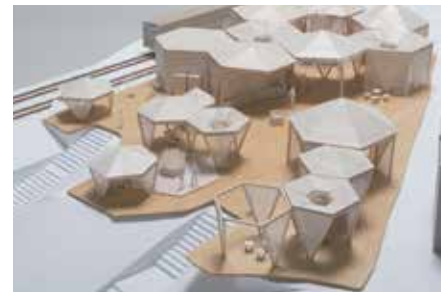
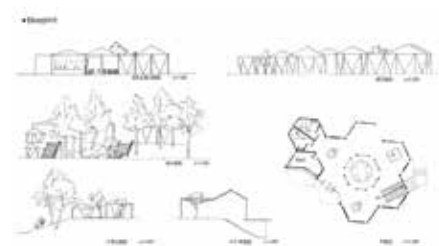
木造軸組架構から考える

井の頭公園駅は吉祥寺駅からひとつめの、井の頭線内では最も乗降客が少ない駅である。井の頭公園が隣接し、周辺には閑静な住宅地が広がっている。

この場の雰囲気と調和した駅舎と駅前空間をデザインしなさい。

構造形式は木造軸組で、基本平屋とする。

タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。



藤野なみか「6」

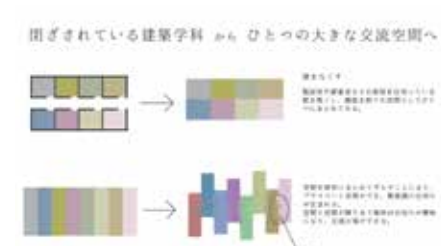
〔第二課題〕

武蔵野美術大学建築学科棟

本学鷹の台キャンパスを貫通する小平 3・3・3 号線道路（幅員 28m）が 3 年後に開通する。この道路を前提に、指定する敷地に建築学科が入る 新棟を設計しなさい。

新棟には、これからの大学の「顔」をつくる、地域に大学をアピールする、道路で南北に分かれるキャンパス内動線を整理するなど、さまざまな水準の検討が求められる。

タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。

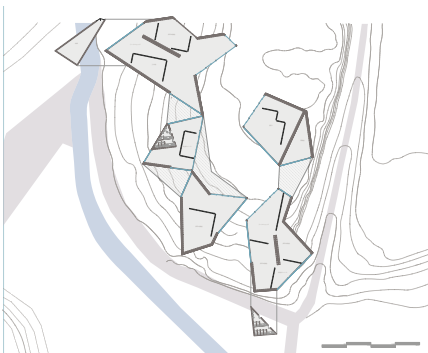


佐久間宏太・荒木愛香・平川凌成「ずらす、にじむ、」

[源スタジオ]

国分寺・崖線文化ミュージアム

斜面地は、農耕や建設に不利な敷地であると同時に、高台、低地を遷移する境界的な場所である。つまり、斜面地は、まず建設に不向きな条件であるにもかかわらずそこに建てるという意味において特別な意味が与えられがちであり、次にそれをどう感受し、理解するかに振れ幅のある、多義的な場所である。このことを意識し、あなたなら、今という時代にどのような精神性を帯びた建築を想像するだろうか。課題敷地は国分寺崖線の中でも武蔵国分尼寺（奈良時代創建）北側の高台と湧水のある谷などからなる一帯である。崖線とその周辺に広がる歴史的景観や遺跡の実体験と古文書、出土品、民具などの歴史的史資料とを結びつけ、さらに崖線が生み出してきたさまざまな文化の様相を研究、展示する崖線文化ミュージアムとその環境を計画、設計する。



梅本りさ子「白に集う、棚を彩る」

[鈴木スタジオ]

身の丈の家

身体とふるまいから都市に住むための
ディテールと空間を考える

まちなかには身体がちょうど収まる小さく居心地のよい場所（身の丈の空間）がある。身がちょうど収まる窪み、腰掛けられる出っ張り、ステップ、雨を凌ぐ軒下と佇むことのできる路地裏。そんな空間にはよく見ると手づくりのベンチやちょっとした庇が架けらるなど人の痕跡を発見する。身体のあるまいと空間・ディテールによるしつらい、空間と身体の相互関連でつくられる空間である。「身の丈の家」とは、まちを利用する人自らが、まちに関わるためのぎっかけ、まちと共いきいきと生きるための実感を取り戻すための建築の提案である。たとえば小さくとも居心地のよい空間、ふたりがおしゃべりできる雰囲気、誰もが見き込みたくなるような仕掛け。これらを実現する要素を実際のまちなかで探し出し、それらをアレンジすることで「身の丈の家」を設計する。

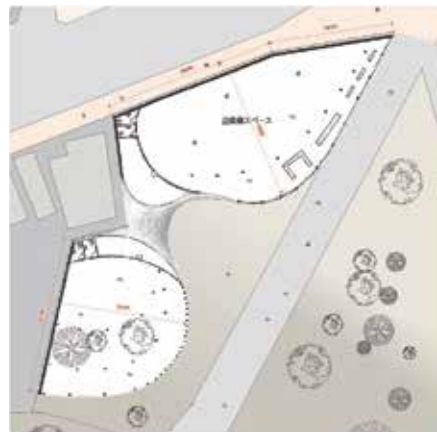


田中楓「Pick up a girl」

[高橋スタジオ]

都市の環境単位

都心では大規模開発によって既存の周辺と不連続な環境単位が出現している。一方、界限性をもちコンテキストが豊かなエリアは、その自然発生的で時間を経た資源を生かした環境単位の連なりとして、再評価されている。対象地である井の頭公園周縁域において、それが実現することで界限性が強化されたり、場所のもつ可能性が浮かび上がってくるようなパブリック性をもった建築を設計しなさい。自己完結せず、都市のインフラや既存の環境資源と積極的な関係性をもつこと。



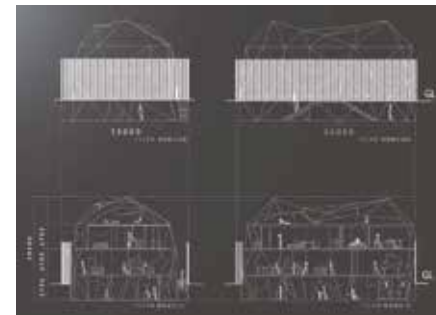
川田尊旨「吉祥寺現代美術館」

[長尾スタジオ]

神楽坂プロジェクト

都市の歴史的把握と未来へ向けて

対象地である神楽坂3・4・5丁目では生きた路地の佇まいが今でも維持されている。また、路地景観保全のため地区整備計画区域に指定され、建築の高さや用途に制限が加えられた。こうした地域の抱える課題に、建築を通して正面から取り組んでいきたい。神楽坂という街は変化の過程の中にあり、新しいものと古いものが共存・共生しつつある一方、街の脈絡とは無関係に進められている計画もまた見られる。神楽坂のもつアイデンティティとは何か、歴史と伝統の意味・価値を探るところから出発し、継承の先にある新たな建築や街の可能性を、実際のフィールドワークや建築設計を通して探り、その上で「商」と「住」の双方の機能を併せもつ複合施設を計画する。



川合裕香「神楽坂花 (kagurazaka)」

〔布施スタジオ〕

鷹の台コンプレックス

公共空間の新しい可能性を提案する

鷹の台駅に隣接した小平中央公園内に、鷹の台駅と小平中央公園、玉川上水をつなぐ公共複合施設「鷹の台コンプレックス」を提案する。計画建物は、小平市の地区図書館、地域センターを中心に、鷹の台駅と小平中央公園を接続するように公園への動線を内包する複合施設として計画、設計しない。鷹の台駅は、武蔵野美術大学、津田塾大学、白梅学園大学、創価高校等の教育施設が立地しているこの敷地の位置づけとともに、どのような用途を複合して計画することがこの敷地を生かすことになるのかを考えると、単なる複合施設ではない、公共空間の新しい可能性を提案してほしい。

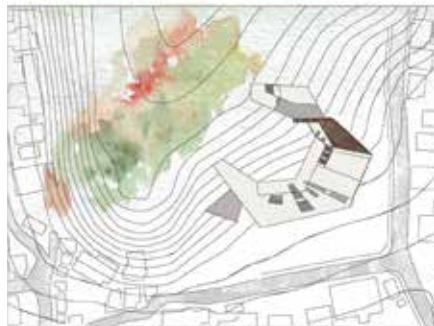


額賀彩乃「Takanodai Complex」

〔菊地スタジオ〕

地域の歴史を引き継ぐ郷土資料館

敷地は、現在東大和市の郷土博物館が建つところを想定する。この敷地は、狭山丘陵の足元であり、南側には武蔵野台地の平坦な風景が広がる。敷地上部は、敷地北西の尾根筋に通ずる遊歩道に接続しており、散策路の基点にもなっている。館内は戦時中の資料、狭山丘陵のダム工事で水没した集落、古くは縄文時代などの土器や道具などが展示されている。地域の子供も楽しめるようにプラネタリウムも併設している。

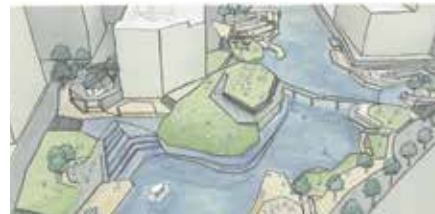


奥泉理佐子「歴史の空隙」

〔長谷川スタジオ〕

江戸発祥の地に「川の広場」をつくる

都市の広場は都市の成り立ちとともにあり、広場をもたない都市はおそらくこの世にないのではないだろうか。集まる、交換する、見る、聞く、遊ぶ、選ぶ、ただ居る、食べる、など、都市こそが広場であるといっても過言ではない。今回の敷地は江戸発祥の地である日本橋川「鎌倉河岸」付近。東京の始まりにできた広場空間といえるが、現在は大手町（丸の内）、日本橋に挟まれて元気がない空間になっている。ここに新しく、かつこの場所にふさわしい広場を提案してもらいたい。船着き場をもつことは必須要件だが、それ以外に、それぞれが広場にテーマ設定をしてもらいたい。例えば劇場としての広場、居酒屋としての広場、全部木でできた広場、実は橋が広場になっている、など。自由な発想による 21 世紀の鎌倉河岸の提案が課題である。



小袋竹恵「にぎわう、うまれる」

〔土屋スタジオ〕

東京散歩「場所のもつ記憶と力」

銀座、日本橋、丸の内、皇居周辺

場についての考察。「場」とは、それぞれのメディアや関わり方によって多様な解釈を生むが、それぞれが独自のアプローチによって交差するところを「場」と捉え、そこから新たな表現を創造する。大都市東京は他に類を見ないほど複雑で、流動的かつ個性的な都市である。この不思議な構造をもつ東京を、縄文地図を持ち、垂直的な時間軸と連続しながら散策・考察することで、見慣れたはずの東京の相貌が、また別な視点で捉えられるのではないか。我々の足元にはさまざまな神話の時間が流れている。遠い過去の記憶と現在を一つに結びつけることも創造的冒険である。



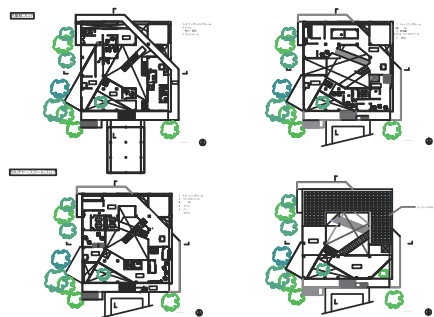
鈴木万葉「東京拓本散歩」

[源スタジオ]

世田谷区役所の新利用

世田谷区役所（1959 年／前川國男設計）が今、注目を浴びている。建て直すのか残すべきか、行政、建築家協会、そして区民の意見が二つに分かれている。大きなケヤキに囲まれた名建築はどうなるのだろうか。

ヨーロッパには古い建物を残し、面白い再生をすることで歴史と現在を結びつけた事例があるが、新しくすると同時に、大事な街や場所、人々の思い出や未来も守っていくためには、建物の再利用を見直す必要がある。この課題では、区役所は別の場所に移転するものとし、現在の世田谷区役所の場所に、現在の延床面積規模と同程度の、区民のための施設を計画、設計する。今の建物を再生・再利用するのか、建て直すのか、また区民のための施設としてこの敷地にどのような用途がふさわしいかを検討し、地域の歴史、個性、そして環境とエネルギーを考慮して、自由に提案しなさい。

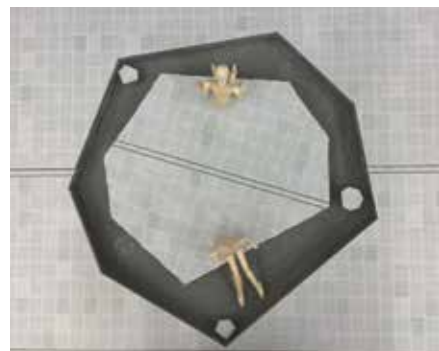


山本知歩「大きなケヤキの木の下で」

[鈴木スタジオ]

公共空間の中の「座る」をデザイン

建築を捉える手法にはマクロ的な視点がある一方で、より一層、身体的なスケール感、ミクロ的な視点で、ものづくりについて考え、建築的なイマジネーションの力を養うことも大切な要素である。この課題では、建築に携わる際にも重要だと考えられるプロダクトデザイン的な視点・発想を学習するため、公共空間の中の「座る」かたちをデザインする。学校内、駅、空港、図書館、美術館、病院、公園等、人が集う場にある「座る」かたちや現場での問題点をリサーチし、人が集う場所の「公共性」についても考察した上で、各自が、オリジナルのアイデアを大切にしながら、空間に集う人々への配慮がなされた、新しい「座る」かたちをデザインし提案しなさい。



越智啓介「ICE BERG」

[高橋スタジオ]

新しいコミュニティのための建築

この課題は渋谷を敷地として、来たるべき都市災害に対応した「新しいコミュニティ」のための建築を考案することを目的とする。2011 年の東日本大震災以降、「コミュニティ」の重要性が語られることが増えたが、それは多数の被災者が避難所の極限状態を生き抜くために、地縁を基盤とした「共助」の思想が有効であったためと想像される。一方で東京圏に住む私達には、この「コミュニティ」という言葉が、今ひとつ実感できていないように思われる。この課題では、東京で大きな災害が起きることをリアルに想像することで、東京では実感しにくい「コミュニティ」というものを考え直す。三陸とは違う「東京型コミュニティ」とは何なのか。今回は、そのコミュニティのための空間とプログラムをデザインする。平常時の利用のされ方はもちろん、災害時の利用のされ方も明確に設定すること。



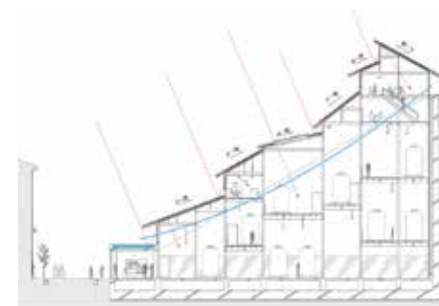
小林恵理「ジャングルジム児童館」

[布施スタジオ]

「夏空」が決める建築

空の見方を考えたり空の切り取り方を建築で考える

夏空を美しく感動的に見せたり切り取ったりできる建築を考えてみる。夏空を通してワクワクするような新しい建築を考えること。各自が敷地と規模を決め、「夏空」をはらんだ建築や風景を、建築的操作で表現しなさい。

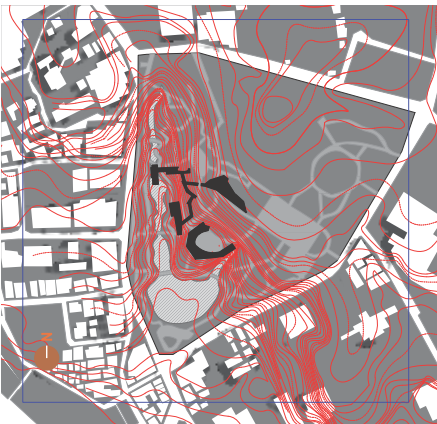


安倍直人「ナツクラ」

[菊地スタジオ]

地形を読み解き 建築を考える

我々が暮らす東京は特徴的で複雑な地形をもつ、世界にも例がないほどの巨大都市である。地形を読み解き（Geography）、土地を学び（Geology）、土地を測る（Geometry）。地形を理解することで、そこに生み出された都市空間が見えてくる。地形がつくられた理由やその時間的変遷を調べ、都市や建築を地形との関係から学んでいく。さらに自ら魅力ある地形を見つけ出し、そこにその特徴を活かした新しい都市空間を計画してほしい。



吉澤鏡河「図書を巡り、地形を繙む」

[長谷川スタジオ]

ムサビサテライトパーク

西武線鷹の台駅は、商店街側（西側）のプラットフォームが利用され東側プラットフォームは小平中央公園脇にありながらその地域特性を生かされずに存在している。また小平中央公園は幅 36m ある都市計画道路が公園東側に計画され、将来的に公園内の利用形態も変化していくことが予想される。このような状況の敷地であり、またムサビキャンパスへとつながる玄関口となっている鷹の台駅と公園において「ムサビサテライト」として、制作した物や活動を地域に発信できる場、あるいは地域交流が生まれる場としての新たな駅舎および公園を提案しない。この提案により鷹の台駅、そして鷹の台商店街、および小平中央公園の新たな利用の可能性を提示し、さらに武蔵野美術大学の地域発信の場としてほしい。



野口友里恵「小平のつなぎめ」

[土屋スタジオ]

建築とアートの横断

個の協働による独創的關係性が生まれる空間の提案

建築と美術の領域横断的傾向は近年国際的にも顕著である。建築家は設計だけでなく美術館におけるインスタレーション作品の発表など新たな空間表現を試み、美術家側も特定の場所や地域へ直接的に介入することで空間的・協働的な表現へと活動の幅を広げている。こうした模索に対する一つの回答として、「自立した個の行為の連なりの先に生まれる、新たな関係性の構築」が挙げられる。この課題では、「個の協働による独創的關係性が生まれる空間の提案」を追求する。本学学内を「空間とそこで育まれている関係性（人・モノ・空間・環境 etc …）」という視点でリサーチし、任意の空間を選択する。そこに参加学生個々の創造性を持ち込み、それらが連動し、さらにはそこに関わるあらゆる要素によって、それまでにない新たな関係性が生まれる空間を制作する。



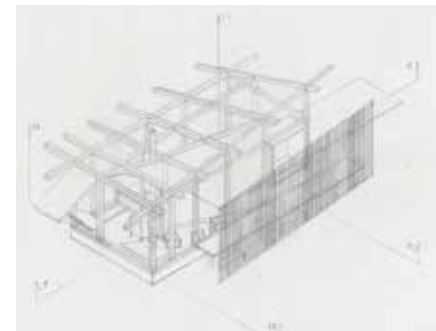
星野陽菜・青木悠里・飯塚菜々子・上坂直・小倉遊「視覚で追いつける物語」

[長尾スタジオ]

小さな空間・小さな家の計画

「住まい」は建築の原点である。小さな規模の「住まい」には、鴨長明の「方丈庵」、コルビュジェの「カップマルタンの休暇小屋」、ソローの「森の家」など、素晴らしい作品がある。単なる住まいではなく、執筆空間、創作空間、宗教空間であったり、その空間はその人の人生に深い影響を与えている。ここでは各自の考える「小さな空間」を計画提案することで、自分の考えや主張をそこに投影し、「家」とは何かあらためて考えてみよう。

1. 最小限の空間であること。 2. 生活空間として最低限の機能をもつこと。 3. 単なる「住まい」でなく、各自が考えるテーマを表現する空間を提案する。 4. 立地・周辺環境は自分の考える「小さな空間」にいちばん適した場を設定する。 5. 素材、使用材料、架構、構法などを十分検討して提案する。



小谷栄人「私の小さな空間 その思考過程」



金賞・優秀賞（学校賞）

「水路の物語を紡ぐ」 野口友里恵

選評：福岡県大川市は古くから水路を開きながら町が形成され、それらに依存しながら家具工業や農業が発展してきた。その後都市形成とともに水路との関係が失われてきてしまったが、この作品ではあらためて地域のシンボルである水路をつなぎ直し、形の復元だけではなく家具工業と農業の再生も組み込み、さらにそれを観光につなげていこうというエリアのデザインを提案している。考え方はシンプルであるが、どんどん展開していく可能性も秘めており、新しいこれからの暮らし方までも射程に入れたランドスケープデザインとして秀逸な作品である。（長谷川浩己）

「JIA 第24回東京都学生卒業設計コンクール2015」銀賞 受賞
「日比谷ランドスケープデザイン展 2015」優秀賞 受賞



銀賞・優秀賞（学校賞）

「Residential BELT」 池川健太

選評：「Residential BELT」は、渋谷区代官山周辺における再開発に対するアンチテーゼとしての設計構想である。近年の大規模再開発によって大きく街が変わりかけている状況に、孤立した住宅エリアの景色を守る。建て替えではない商業エリアの開発としての新たな提案である。この作品は、選抜講評会においてさまざまな意見が集中した挑戦的な内容の設計構想であると同時に、模範性は庄巻であり、優秀賞にふさわしい力作である。（布施 茂）

「第38回学生設計優秀作品展（レモン展）」長谷川逸子賞・レモン賞 受賞



銅賞

「なぜ住む なぜ生きる なぜつくる そんなしがらみを そんな社会を そんな 自分を 抜け出すために 僕は × × する」 小谷栄人

選評：原始的な小屋のようで、おそらく先例のないつくり方が試みられた。竹をログハウスのように積み重ねているが、壁をつくる構造ではない。竹を積み重ねた塊を彫るかのように空間をつくり、竹をたわめて空間を拡げている。光や視線を意識し対話するように内側がつくられていった。ひたすら内側を拡げる洞窟住居とも、身にあわせて外側に枝を集める巣づくりとも異なる。環境との対話と内省を繰り返してつくる建築の提案であり、図式優先の建築への批判でもある。（源 愛日児）

「第15回卒業設計コンクール」特別審査員賞 受賞



奨励賞・優秀賞（学校賞） 安倍直人「まちかどアイスロード」



優秀賞（学校賞） 小林恵理「高齢者をつなぐ散策路」



奨励賞 小倉 遊「一」



奨励賞 神農早生里「結び目」



奨励賞 津金愛理「風景の階調」

学部 4 年間で取り組んだ制作や研究のテーマをさらに深め探求したい学生には大学院進学という選択肢もあります。

大学院では、専門領域・建築理論・方法論を異にする教授のもとで各スタジオに所属し、それぞれに中心テーマをもって自分の課題に取り組みます。スタジオの指導教員と密接な関わりをもちながら、将来、建築家・デザイナー・アーティスト・研究者として活動するための制作・研究の核心となる考え方や方法を探求していきます。

2014 年度修了制作優秀賞

「46 番地の脱衣場」 豊島浩太郎

“脱衣場”——文字通り服を脱ぐこの場所は、銭湯という用途を用いれば“裸”でいることが許容される公共空間だと解釈できないだろうか。自分の部屋で裸で居られるならば、銭湯で裸で居られるならば、<private>と<public>の境界は“脱衣所”をもって相殺する。

選評：「46 番地の脱衣場」は、銭湯を中心に、オーナー住宅、賃貸 6 世帯の計画である。脱衣室の空間をコモンではなくパブリックの性格をもった共有のあり方で、居室と銭湯をリンクさせた新しい單身者世帯の住まい方の提案である。この作品は、計画・設計・プレゼンテーションとも秀逸であり、特に設計密度と図面に関しては近年の大学院修了制作の中でも高いレベルであり、優秀賞にふさわしい秀作である。(布施 茂)



2014 年度修了制作優秀賞

「美術室の拡張

—学外と学内の新たな教育環境を提案する」

清水佑基

美術室というキーワードをもって、既存のプログラムから抽出し、学内にはゆとりのない美術教育を学外に拡張するかたちで新たな教育環境を提案していきたいと考える。また、一部の機能を街に解放することで学校と都市の新たな関係をつくらねないだろうか。

選評：「美術室の拡張」は、義務教育において縮小していく美術教育に対して、美術室をキーワードに既存のプログラムから抽出し、美術教育を学外に拡張するかたちでの新たな教育環境の提案である。この計画は、一部の機能を街に解放することで学校と都市の新たな関係をつくることを目指している。リアルな問題としても十分に可能性を感じさせる提案であると同時に、子供のスケールを意識した断面計画が見事な力作である。(布施 茂)



大学での授業だけではなく、その延長として社会と関わる活動や国際交流なども行っています。

学外とのコラボレーション／国際交流プロジェクト

建築学科では、企業や自治体とのコラボレーションで、地域コミュニティづくりに実践的に関わるプロジェクトに参加し、建築やアート、ランドスケープの領域を横断して社会に向けた提案を行っています。また海外の大学との共同ワークショップや訪問教授の招聘など国際交流プロジェクトも多数実施し、世界へ向けて発信していく人材の育成に取り組んでいます。



アートサイト八郷 2014 夏

「お化けと妖怪〜怖いってなんだろう?〜」



訪問教授ハッリ・コスキネン ワークショップ
「Light Matters」

■2010 年度以降の学外プロジェクト

愛知県額田天徳の森アートプロジェクト
アートサイト八郷
太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ
神楽坂プロジェクト
空間の菊まつりプロジェクト
近代化産業遺産愛媛トンネルプロジェクト
高知県佐川町プロジェクト
JR 中央ラインモール計画
常盤平アートセンタープロジェクト
徳島県勝浦川環境アートプロジェクト
松戸アートラインプロジェクト
横浜黄金町再生プロジェクト
ららぽーと立飛スペースデザインプロジェクト
陸前高田市今泉地区移転計画プロジェクト
■2010 年度以降の国際交流プロジェクト
「すき間」から考える新しい住まい方（デンマーク王立芸術アカデミー建築学部）
チェルシー・キャンパス・プロジェクト（ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン）
地下探訪——都市形成の変遷とカタフィル文化の考察（パリ国立高等美術学校）
訪問教授フィリップ・ベヌカン（フランス）
訪問教授ハッリ・コスキネン（フィンランド）

建築学科の年間イベント

学内・学外のたくさんの方に作品を見ていただくために、プレゼンテーションの場を多数設けています。

6 月・8 月：オープンキャンパス
7 月：パーティカルレビュー夏（前期課題作品選抜講評会）
10 月：芸術祭（有志による展示が行われます）
12 月：パーティカルレビュー冬（後期課題作品選抜講評会）
1 月：建築祭（卒業制作選抜講評会）

建築学科の専用施設

建築学科では製図室や工房などそれぞれの制作に応じた施設を充実させています。



■製図室

1 ～ 3 年生まで学年別に製図室があり、一人一台の製図機を使うことができます。



■建装修

建築学科専用の工房はパネルソーやスライドソー、溶接機、レーザー加工機など、さまざまな素材・加工に対応可能な機材を備えており、学生は必要に応じて利用することができます。

■ゼミ室：4 年生になると所属するスタジオごとに割り当てられたゼミ室で制作を行います。
■院生室：大学院生室はコンピュータのほか、プリンターやスキャナーなど、院生の研究活動に必要な機材が導入されています。
■講義室：建築学科専用の 308 講義室では専門科目の講義のほか、ゲストを招いての課外講座やパーティカルレビューなどのイベントも行われます。
■展示スペース：普段は自由に使える空間ですが、課題の締め切り近くには制作場所になったり、講評時にはここで展示と発表が行われます。
■写真スタジオ：撮影機材を備えた写真スタジオは、主に学生の課題作品の模型写真撮影や個人研究としての写真撮影のために使われています。

多彩な専門分野・研究テーマをもつ教員が、学生ひとりひとりの関心に合わせて指導します。



布施 茂 主任教授
建築家 fuse-atelier 代表

一専門分野・研究テーマ

建築設計。建築におけるシーケンス、空間の分節、プロポーション、素材、ディテールの探求。

一布施スタジオのテーマ

建築設計に特化したスタジオで、実践的な建築設計や実際の建築作品を通して建築の新たな可能性を探求します。

studio.fuse-a.com

1960 年千葉県生まれ。84 年武蔵野美術大学建築学科卒業。84 年東京工業大学工学部建築学科坂本研究室研究生。85 年～第一工房、95 年間設計部長。2003 年 fuse-atelier 設立。04 年武蔵野美術大学助教授。06 年～同教授。主な作品に「全労済情報センター」（第一工房）、「群馬県立館林美術館」（第一工房）、「House in TATEYAMA」, 「House in ABIKO」, 「House in TSUTSUMINO」, 「HOUSE in TSUDANUMA」など。



長谷川浩己 特任教授
オンサイト計画設計事務所パートナー

一専門分野・研究テーマ

ランドスケープ・アーキテクチャ。実務をともない、小さな庭から大きな都市スケールまで、コミュニティから経済的根拠までカバーしつつ、デザインの価値を考える。

一長谷川スタジオのテーマ

自分という部分から、風景という全体を考えていきたい。対象が大きく関わる人も多いので、スタジオではディスカッションを重視し、皆が共有できるビジョンを掲げられるデザイナーを目指しています。

musabi-landscape.net

1958 年千葉県生まれ。千葉大学を経て、オレゴン大学大学院修士課程修了。2009 年～武蔵野美術大学特任教授。[横浜ポートサイド公園]、「館林美術館／多々良沼公園」、「丸の内オアゾ」、「東雲 CODAN」、「星のや軽井沢」、「ハルニレテラス」、「日本橋コレドの広場」などで、グッドデザイン賞、造園学会賞、土木学会デザイン賞（最優秀賞）、AACA 声原義信賞、ARCASIA GOLD MEDAL、アーバンデザイン賞などを受賞。共に『つくること、つらないこと』（学芸出版社）など。



土屋公雄 客員教授
彫刻家
環境造形アーティスト

一専門分野・研究テーマ

環境造形、現代美術、アートプロジェクト。1 分の 1 の感動体験と、実践的な活動を通し新たな表現世界を探求する。

一土屋スタジオのテーマ

建築とアートの領域をしなやかに超え、想像力と創作力を友として、未来を力強く生き抜くクリエイターを育てたいと願っています。

www.arc.musabi.ac.jp/studio/tsuchiya/



源 愛日児 教授

一専門分野・研究テーマ

デザイン行為における参照概念の存在とその変容の様相を、日本の歴史的木造建築構法を対象に研究すること。継手仕口、指物架構の種類、在来木造の成立などの研究。

一源スタジオのテーマ

概念から自由である建築、環境のデザイン。その環境に暮らす人が自由である、またそのことを通して人の存在感到きかける建築デザインを目指す。歴史的都市の変容、身体と建築、現象の建築化、連家など。

www.arc.musabi.ac.jp/studio/minamoto/



鈴木 明 教授

一専門分野・研究テーマ

建築デザイン、建築計画、建築論、インタラクションデザイン。社会的な活動としてワークショップによるまちづくり、建築批評や建築展（企画運営）。研究課題として「セルフビルド建築研究」「ル・コルビュジェの身体図像に関する研究」など。

一鈴木スタジオのテーマ

3 年生は、身の丈の家（人間の身体寸法やふるまいから建築や都市を考察し設計する）に取り組み、4 年生は、コンピュータを用いたパラメトリックな建築の方法論を学びます。卒業研究（論文と制作）は、これら基礎的な方法論と各自の関心から、建築設計・建築理論・セルフビルドなど個別の研究を進めます。

www.facebook.com/akirasuzukistudio



高橋晶子 教授

建築家 ワークステーション共同主宰

一専門分野・研究テーマ

建築デザイン。建築の空間構成・現象の研究、パブリック性をもつ空間の研究。

一高橋スタジオのテーマ

無意識に捉えている事柄を再定義し、あらたな発見を伴う建築を目指しています。建築の構成と現象を常に同時に考えることを意識し設計を進めます。

www.wstn-arch.com/takahashistudio/



菊地 宏 准教授

建築家 菊地宏建築設計事務所代表

一専門分野・研究テーマ

建築デザイン。さまざまな素材や方法による建築の表現方法の研究と実践。

一菊地スタジオのテーマ

建築の原始的姿から現代の建築を読み解く。特に建築の足元である地面に着目し、地形と都市、地形と建築、それにまつわるさまざまなことを包括的に捉えます。

www.hiroshikikuchi.com/?dr=studio



野沢正光 客員教授

建築家 野沢正光建築工房代表

一専門分野・研究テーマ

温熱・環境を考える建築設計＋中規模・大規模な木造建築設計。地元材と地元の人材大工の手による建築＝資源循環型建築。

一学生に期待すること

たくさんの方に興味をもつこと。そして知ること。それを通して考える力を付けること。考える力が独自なものであること。

※スタジオは開設していません。

非常勤講師
金弘志（設計計画Ⅱ-2）
河内孝夫（建築設備・実験Ⅰ/Ⅱ）
川村政治（建築設備特論）
赤羽元英（建築設備・実験Ⅰ/Ⅱ）
岸田省吾（建築意匠 A）
木津雅代（庭園史）
桑田 豪（設計計画Ⅱ-1）
小泉一斉（設計計画Ⅱ-2）
河野有悟（建築設計基礎、設計計画Ⅲ-1）
後藤 茂（都市デザイン A）
小林 敦（建築設計基礎）
小松宏誠（設計計画Ⅲ-2）
小宮 功（設計計画Ⅱ-2）
齊藤祐子（設計計画Ⅱ-2）
佐藤利昭（構造力学基礎）
渡江桂子（環境生態学特論）
砂山太一（設計計画Ⅳ）
笠置秀紀（建築設計表現）
片瀬一郎（設計計画Ⅰ-1）
金子智子（設計計画Ⅱ-1）
金子 博（建築法規Ⅰ/Ⅱ）

田口明美（建築設備・実験Ⅰ/Ⅱ）
田原唯之（設計計画Ⅳ）
常山未央（設計計画Ⅲ-1）
鶴島孝一（環境計画 b）
戸井田 雄（造形演習）
中村幸悦（構造力学Ⅰ）
新聞謙一郎（設計計画Ⅳ）
西尾聡志（設計計画Ⅲ-1）
林 英理子（設計計画Ⅳ）
原田将史（設計計画Ⅲ-1）
彦根アンドレア（設計計画Ⅳ）
日野雅司（設計計画Ⅳ）
藤田修司（設計計画Ⅱ-2）
船曳桜子（設計計画Ⅲ-2）
細久 仁（設計計画Ⅳ）
増田信吾（設計計画Ⅰ-1/2、設計計画Ⅲ-1）
松井晃一（構造力学Ⅱ）
三浦清史（建築材料学・実験Ⅱ）
元木大輔（設計計画Ⅱ-1）

1962 年イタリア生まれ。86 年エコール・ド・アール・デコラティーフ卒業。88 年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修了。88 年～伊東豊雄建築設計事務所を経て、91 年マーク・ダイサムと共同でクライン ダイサム アーキテツを設立。2009 年～武蔵野美術大学客員教授。主な作品に「DAIKANYAMA T-SITE」、「SHISEIDO THE GINZA」など。D&AD Awards、WAF Awards など受賞多数。



アストリッド・クライン
客員教授

建築家 クラインダイサム
アーキテツ共同主宰

一専門分野・研究テーマ

建築設計、インテリアデザイン。

一学生に期待すること

英語力を身につけ、世界を自分の目で見て回ってください。

※スタジオは開設していません。

山内彩子（環境計画 b）
山田茂雄（庭園史）
祐東坊 達（設計計画Ⅲ-1、環境計画 b）
若松 均（設計計画Ⅲ-2）
研究室スタッフ
助手 安島総一郎
入江剛史
白田桃子
稲葉祐貴
橋田圭介
藤本香織



酒向 昇

建築デザイナー
竹中工務店東京本店
設計部副部長

「ルフォン御殿山」(2008年)

一現在のお仕事について

オフィスビルの設計を中心に、設計から実施設計・監理、コンペや改修までを担当する設計グループを率いています。

ムサビで学んだこと

設計課題に取り組むことで、問題を明確化し解決するプロセスを学び、それは現在の仕事にも活かしています。



「TV 広州 F&B」(2013年、「Restaurant & Bar Design Awards 2014」大賞受賞)



小坂 竜

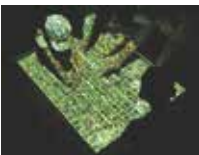
乃村工務社 商環境
事業本部 A.N.D
クリエイティブディ
レクター

一現在のお仕事について

大きな会社に属しながら、青山にも事務所を構え、国内外の上質なホテル・レストラン・レジデンスなどのデザインをしています。

ムサビで学んだこと

色んなジャンルのモノをつくる仲間がいるので、モノをつくる楽しさと厳しを経験することができました。



「Magnetosphere」インタラクティブ砂状磁気感応ディスプレイ (2007年)



串山久美子

メディアアーティスト
ノ/首都大学東京教
授

一現在のお仕事について

デジタル技術を利用した映像や音や触覚のインタラクティブアートやインターフェイスデザインの制作・研究・開発をしています。

ムサビで学んだこと

学ぶことと遊ぶことがとても近いこと、思考の柔軟さ、何でも前向きに楽しんでチャレンジする面白さを先生や友人から学びました。



「Dogo Kameke Hutte / 稲ヒュッテ」(追後オンセンサー 2014 にアーティストとして参加) 撮影=KIKI

一現在のお仕事について

雑誌はじめ広告、TV 出演、連載執筆。近年では自身の写真展『PRISMA』シリーズを発表。また芸術祭に作家として参加など。

ムサビで学んだこと

建築と一言でいっても幅広い世界があり、さまざまな表現方法があること。また何かを一つのことを続ける大切さを教えてもらいました。



「スラムがマフジ資料館」(2014年) 撮影=KOBFUJI Architects

一現在のお仕事について

スペイン・バルセロナを拠点に、建築・内装設計や展覧会等のイベント企画制作をしています。

ムサビで学んだこと

分野を超えた授業内容により、音楽、デザイン、アート、美術史等、多方面から建築へアプローチすることの楽しさを学びました。



小嶋 香

KOBFUJI Architects
共同主宰



TOTO ギャラリー・開展覧会「ここに、建築は、可能か」(2013年1-3月) 撮影=Naciss & Partners Inc.

一現在のお仕事について

TOTO (株) の文化活動の一環として、建築文化の向上を目的に、自主企画で展覧会・講演会の開催、出版物の発行などを行っています。

ムサビで学んだこと

「建築」が単なる工学的なものではなく、数千年の人類の歴史を担ってきたこと、文化・芸術的側面の価値も非常に大切であること。



遠藤信行

TOTO ギャラリー・
同 代表/
TOTO 出版 編集長



「青豆ハウス」(2014年) 撮影=ブルースタジオ

一現在のお仕事について

平成12年からムサビの同級生3人ではじめた会社「ブルースタジオ」でリノベーションをテーマにコトづくりの仕事をしています。

ムサビで学んだこと

人と同じことより違うことが価値とされる校風。多様な感性をもつ仲間との交流、対話が自らの感性を磨いてくれました。



大島芳彦

株式会社ブルース
タジオ専務取締役・ク
リエイティブディレ
クター



「TL VILLA」(2005年、インドネシア・バリ島)

一現在のお仕事について

建築、インテリア、プロダクトという枠組みを横断して、都市形成に関わることをデザインしています。

ムサビで学んだこと

異業種のデザインする方々との自然なコラボレーション。



鄭 秀和

インテンショナル
リズ 代表

主な就職先

■アトリエ系建築設計事務所

青木淳建築計画事務所、戸原太郎建築事務所、アンドウ・アトリエ、伊坂デザイン工房、石上純也建築設計事務所、乾久美子建築設計事務所、畝森泰行建築設計事務所、沖本初建築設計事務所、オンデザインパートナーズ、カサアキテクトオフィス、城戸崎建築研究室、コンテンポラリーズ、SANAA、鈴木喜一建築設計工房、スタジオプラナ建築設計事務所、第一工房、園紀彦建築設計事務所、手塚建築研究所、永山祐子建築設計、梅田喜夫建築設計室、彦根建築設計事務所、fuse-atelier、ブルースタジオ、細矢仁建築設計事務所、本間至／ブライシュエフト一級建築士事務所、前田太郎建築設計事務所・ペイリーフ、横総合計画事務所、増田信吾＋大坪克己、光井純&アソシエーツ建築設計事務所、ミリグラムスタジオ、矢萩喜從郎建築計画、山本理顕設計工場、ヨコモゾマコト建築設計事務所、吉村靖孝建築設計事務所、ラカンデザイン研究所、ロカ、ワークステーション一級建築士事務所、若松均建築設計事務所

■組織設計事務所

日建設計、日本設計、伊藤喜三郎建築研究所、相和技術研究所、日本建築構造センター、バックグランド、プランテック総合計画事務所、頻設計室

■建設会社

大林組、鹿島建設、清水建設、大成建設、竹中工務店、青木あすなろ建設、SYK、小川建設、鴻池組、JR 東日本、JR 東日本都市開発、ジェアール東日本ビルディング、新三平建設、大同工業、大和小田急建設、高松建設、動真建設、平成建設、森ビル、ヤマウラ

■住宅メーカー

大和ハウス工業、住友林業、積水ハウス、ミサワホーム、三井ホーム、アキュラホーム、エス・バイ・エル、タマホーム、東急ホームズ、東京セキスイハイム、トヨタホーム、東都、トレカサ工事、ニットー住宅、パナホーム、古郡ホーム、ボラスグループ、ヤマナホールディングス、ユウキ建設

■不動産業

エスケーホーム、王子不動産、木下不動産、草野工務店、サジェスト、大東建託、日神不動産、三井不動産リアルティ

主な進学先・留学先

武蔵野大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、東京藝術大学大学院、横浜国立大学大学院、東北大学大学院、筑波大学大学院、千葉大学大学院、大阪大学大学院、熊本大学大学院、大阪公立大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院、東京

■ランドスケープデザイン

オンサイト計画設計事務所、スタジオテラ、ソラ・アソシエイツ、ランドスケープデザイン、ランドブレイン

■インテリア・ディスプレイ

丹青社、乃村工務社、イリア、インテンショナルリズ、ウエル・ユウカン、遠藤照明、岡村製作所、グリーンディスプレイ、小林工芸社、コクヨ、コトブキ、サンフレホールディングス、ジーク、GK デザイン、ジールアソシエイツ、スタジオムーン、スーパーボギーブランニング、スペース、高島屋スペースクリエイツ、タカラスペースデザイン、竹内デザイン、デザインアートセンター、トクラス、ドラフト、夏水組、プロテラス、ボンデオデザインスタジオ、三越伊勢丹ラボパティ・デザイン

■ファッション

アズノウェア、イッセイミヤケ、エース、オンワード樺山、ケイ・ウノ、コムデギャルソン、ペイクルーズ、丸高衣料、リデア

■舞台

劇団四季、シミズオクト、日本ステージ

■メディア

NHK、テレビ朝日、新建築社、商店建築社、TCJ、マルモ出版

■広告・グラフィックデザイン

アマナホールディングス、博報堂アイ・スタジオ、ビー・クス

■官公庁

宮城県庁、昭島市役所、神戸市役所、調布市役所、飯能市役所

■その他

クレスコ、湘南ゼミナール、TOTO エキスパート、日大グラビヤ、日比谷花壇、ベネッセスタイルケア、UT コンストラクション・ネットワーク、ルビシア、レクシア

理科大学大学院、明治大学大学院、京都造形芸術大学大学院、同志社大学大学院、AA スクール、デルフト工科大学、プラトインスティテュート、ミラノ工科大学、ロンドン大学、ロンドン芸術大学

■2012年

「Tokyo Midtown Award 2012 アートコンペ部門」グランプリ：太田 達
「住宅課題賞 2012」平瀬賞：田中裕大
「グランシップアートコンペ 2013」奨励賞：佐藤仁美
「2012 International Photography Awards annual competition」入賞：石山和広
「Art & Life: 生きるための家屋」入選：黒主大樹・北湯敦史・山口真樹
「第1回平成建設学生設計提案競技」奨励賞：山下真一郎・田中裕大
「JIA 第21回東京都学生卒業設計コンクール 2012」銀賞：武田美紀
「木愛の会 第2回設計競技『間伐材丸太による小建築』」入賞：村上鋭晃
「震災に備えるアイデア募集」優秀賞：佐藤有記



THE PRIZE FOR EMERGING ARCHITECTS 受賞「軀体の窓」
増田信吾＋大坪克己

2016 年度 建築学科入学試験

一般入試 募集 70 名			公募制推薦入試 募集 10 名		大学院入試 造形研究科修士課程デザイン専攻建築コース
一般方式 募集 40 名 本学独自の学科・専門試験	センター A 方式 募集 15 名 大学入試センター試験 ＋ 本学独自の専門試験	センター B 方式 募集 15 名 大学入試センター試験のみ	●自己推薦方式 (学校長推薦不要／評定平均値指定なし) 自己推薦調書による第一次審査と、表現力テスト＋グループ面接による第二次審査で、建築学科で学ぼうとする関心の高さ、情熱、資質を見いだすことを主眼として選抜します。出願に先立って希望者には「事前相談」と「事前面談」を実施します。 ●出願可能年齢 2016 年 4 月 1 日時点で満 28 歳以下の者 ●出願期間 2015 (平成 27) 年 10 月 19 日 (月) から 10 月 30 日 (金) まで (郵送受付・消印有効)		●選考方法 小論文 (英語含む) プレゼンテーション 面接 ●提出作品 1. 近作 1 点 (プレゼンテーションで使用する模型・パネル・デジタルメディア※3 を任意に 1 つ以上選択) 2. ポートフォリオ (近作 3 点以上) または論文 ※3 ファイル形式は、jpg、pdf、ppt、動画は mov とする。提出方法は事前に確認のこと (arc@musabi.ac.jp)
学科試験	本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目※2				
国語 100 点	国語／外国語／数学のうち 1 科目選択 100 点	外国語 100 点			
外国語※1 100 点	選択科目 100 点	国語または数学Ⅰ・数学 A または数学Ⅱ・数学 B 100 点 選択科目 100 点			
専門試験			※1 フランス語を選択する場合は、大学入試センター試験で受験 ※2 本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目の詳細は武蔵野美術大学ホームページへ		
鉛筆デッサン 数学 どちらか 1 科目選択 200 点			入学試験に関する情報・お問い合わせ 武蔵野美術大学 www.musabi.ac.jp/ 入学センター tel: 042-342-6995 (月～土曜／9:00～16:30)		

学部卒業後に取得可能な資格

- ・一級建築士受験資格 (2 年以上の実務経験が必要)
 - ・二級建築士受験資格 (実務経験の必要なし)
 - ・木造建築士受験資格 (実務経験の必要なし)
 - ・学芸員 (別途、科目履修が必要となります)
- ※大学院は一級建築士受験資格要件に対応しています。
大学院で開講している科目の単位修得数により、一級建築士試験の大学院における実務経験年数 1 年または 2 年が認定されます。詳しくは建築学科ホームページで確認または研究室にお問い合わせください。
※本学科には教職課程は設置されていません。

武蔵野美術大学建築学科 学科紹介 2016

2015 年 6 月 12 日発行

発行：武蔵野美術大学建築学科研究室
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
tel: 042-342-6067 fax: 042-344-1599 e-mail: arc@musabi.ac.jp
HP: www.arc.musabi.ac.jp facebook: www.facebook.com/arc.musabi

監修：武蔵野美術大学建築学科研究室
編集：白田桃子
デザイン：瀧田暁月、鈴木美緒
写真：村松 聡、入江剛史、藤本香織
印刷：株式会社アトミ